



## 〈ライトトラップ法による蚊成虫捕獲調査〉

ライトトラップ法による蚊成虫捕獲調査をリスク地点6公園(7か所)、モニタリング地点17公園の合計23公園(24か所)で延べ254回行い、結果を表3に示しました。

捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、7属12種8,404個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ5,859個体(69.7%)でした。次いで、アカイエカ群が1,823個体(21.7%)、ヤマトヤブカが232個体(2.8%)、キンパラナカハシカが182個体(2.2%)捕獲されました。

表3 ライトトラップ法による蚊の種類と総捕獲数(24か所:延べ254回<sup>\*4</sup>)

属	種	捕獲数			
		雌	雄	合計	(%)
イエカ属	アカイエカ群 <sup>*5</sup>	1,799	24	1,823	(21.7)
	コガタアカイエカ	71	0	71	(0.8)
	カラツイエカ	49	0	49	(0.6)
	ハマダライエカ	1	0	1	
	クシヒゲカ亜属	1	0	1	
カクイエカ属	トラフカクイエカ	7	0	7	
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	5,232	627	5,859	(69.7)
	ヤマトヤブカ	227	5	232	(2.8)
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	112	0	112	(1.3)
ナガハシカ属	キンパラナガハシカ	147	35	182	(2.2)
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	11	2	13	
チビカ属	フタクロホシチビカ	2	3	5	
破損(同定不能)		48	1	49	(0.6)
合計		7,707	697	8,404	



写真1 CDC型ライトトラップ



ヒトスジシマカ 雌成虫

\*4: リスク地点(7か所)は全12回、モニタリング地点(17か所)は全10回調査を行った。

\*5: アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネツタイエカの3亜種が含まれる。3亜種は実体顕微鏡下での外部形態による同定が容易ではないため、多くの調査で、アカイエカ群として扱われている。

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、北八朔公園(緑区)の893個体で、次いで、臨港パーク(西区)が886個体、掃部山公園(西区)が881個体でした。種類別にみると、ヒトスジシマカは、掃部山公園で840個体と最も多く捕獲され、次いで北八朔公園が716個体でした。アカイエカ群は、シンボルタワー(中区)で296個体と最も多く捕獲され、次いで臨港パークが255個体でした。コガタアカイエカは、蒔田の森公園(南区)で19個体と最も多く捕獲され、次いでシンボルタワーで18個体でした。

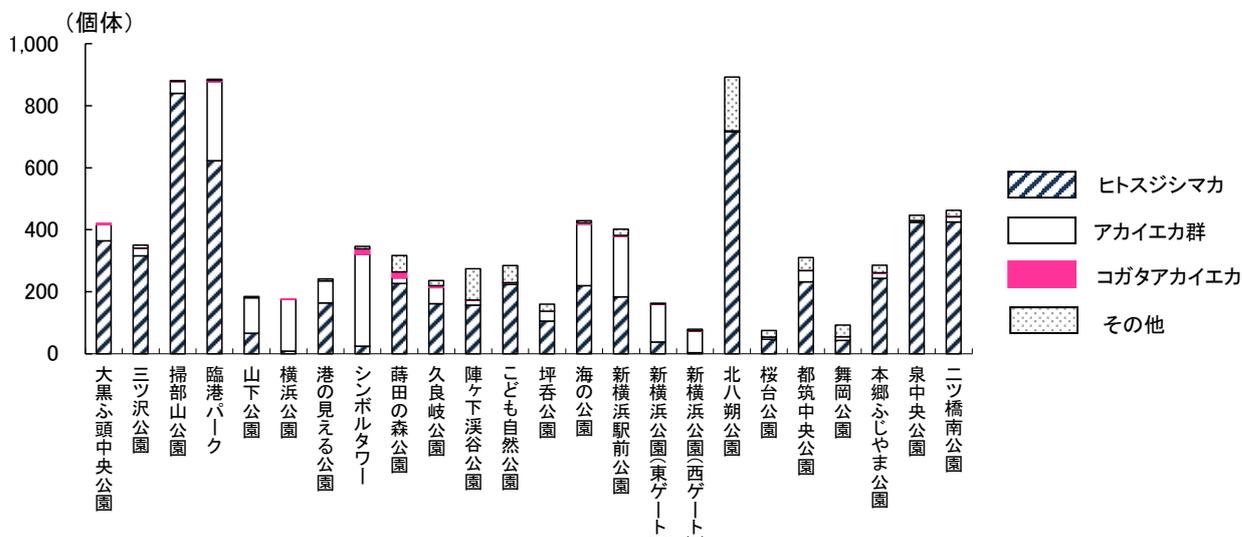


図2 調査地点別の蚊捕獲数

ひとひとり

### 〈人囀法によるヒトスジシマカ成虫捕獲調査〉

山下公園、横浜公園、新横浜公園・横浜国際総合競技場(以下新横浜公園とする)、大通り公園の4公園合計12定点において(図3) <sup>ひとひとり</sup>人囀法(写真2)による蚊成虫捕獲調査を各12回(延べ143回)行いました(7/14の横浜公園定点④は、立ち入り禁止のため実施できず)。捕獲されたヒトスジシマカは、雌成虫が206個体、雄成虫が288個体、合計494個体でした。



【山下公園】①発電設備横 ②中央広場付近の植え込み ③世界の広場端の緑地



【横浜公園】④旧市役所前 ⑤遊具広場横  
⑥日本庭園スタジアム側



【新横浜公園・横浜国際総合競技場】  
⑦東ゲート駐輪場奥 ⑧北ゲート階段奥  
⑨西ゲート広場脇



【大通り公園】⑩石の広場脇の小屋前  
⑪水の広場信号横のベンチ後 ⑫テニスコート横の小屋前

ひとひとり  
図3 人囀法の調査定点

ひとおとり  
〈人囮法による各調査定点のヒトスジシマカ捕獲数〉

ひとおとり  
人囮法による各調査定点のヒトスジシマカ捕獲数を表4に示しました。

山下公園は、4公園の中で捕獲数が最も多く、雌成虫96個体、雄成虫110個体、合計206個体でした。横浜公園は、雌成虫52個体、雄成虫96個体、合計148個体でした。大通り公園は、雌成虫49個体、雄成虫81個体、合計130個体でした。新横浜公園は、雌成虫9個体、雄成虫1個体、合計10個体と少ない捕獲数でした。

ひとおとり  
表4 人囮法によるヒトスジシマカ捕獲数

公園名	定点	ヒトスジシマカ捕獲数		
		雌	雄	合計
山下公園	①	34	12	46
	②	21	15	36
	③	41	83	124
横浜公園	④	16	18	34
	⑤	2	8	10
	⑥	34	70	104
新横浜公園・ 横浜国際総合 競技場	⑦	7	0	7
	⑧	2	1	3
	⑨	0	0	0
大通り公園	⑩	12	19	31
	⑪	22	31	53
	⑫	15	31	46
合計		206	288	494



ひとおとり  
写真2 人囮法

ひとおとり  
〈人囮法によるヒトスジシマカ雌成虫の消長〉

ひとおとり  
人囮法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫の消長(各公園3定点の合計捕獲数)を図4に示しました。

ヒトスジシマカ雌成虫は、大通り公園では5月から10月の調査期間を通じて毎回捕獲されました。山下公園と横浜公園は、6月に捕獲されない日がありましたが、そのほかの調査日には捕獲されました。

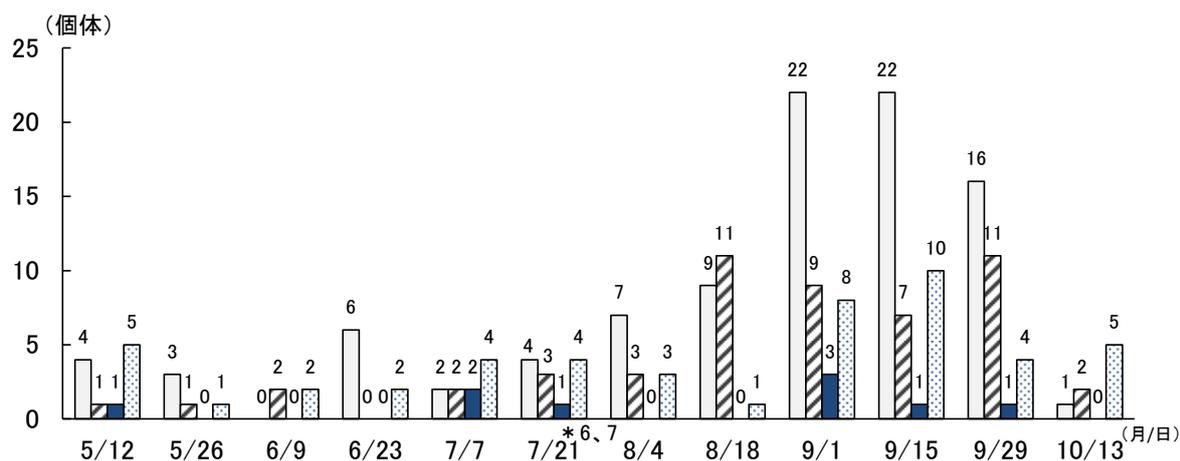
4公園の中で捕獲数が最も多かった山下公園の各調査回のヒトスジシマカ雌成虫合計捕獲数は、初回調査の5/12に4個体捕獲され、8/18までは9個体以下と少ない捕獲数でしたが、9/1、9/15には各22個体と増加しました。9/29には16個体とやや減少し、調査最終回の10/13は1個体でした。

横浜公園は、8/4までは、捕獲数が少ない傾向でしたが、8/18に11個体となり、9/1から9/29にかけて7～11個体捕獲されました。調査最終回の10/13は2個体でした。

大通り公園は、8月までは、捕獲数が少ない傾向でしたが、9/1に8個体、9/15に10個体とやや増加し、9/29は4個体、10/13は5個体捕獲されました。

山下公園、横浜公園、大通り公園は、9月にヒトスジシマカ雌成虫が多く捕獲される傾向でした。

新横浜公園は、調査期間を通じて捕獲数が少なく、9/1が最も多く3個体でした。



\* 6 横浜公園と大通り公園は7/14、新横浜公園は7/28に実施

\* 7 横浜公園は定点④立ち入り禁止のため、2か所の合計値

□山下公園 ▨横浜公園 ■新横浜公園 ▤大通り公園

ひとひとり  
図4 人囀法によるヒトスジシマカ雌成虫の消長

### 〈ウイルス検査〉

ライトトラップ法によって捕獲された雌成虫7,707個体、ひとひとり法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫206個体について、フラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス)及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施し、全て不検出でした。

なお、詳細は、衛生研究所ウェブページに掲載されています。

横浜市衛生研究所ウェブページ:感染症発生状況資料集>病原体情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/kansen-center/byogentai/infc-kabaikai.html>

【 微生物検査研究課 医動物担当 ウイルス担当 】